

平成 28 年度えりも地域ゼニガタアザラシ管理事業実施計画【項目案】

1 被害防除対策

(1) 漁網の改良

- ◆ 漁業者の意見を取り入れながら、定置網への入網を阻止する手法（格子網の装着等）等により、被害を防除する漁網の改良をさらにすすめる。
- ◆ 格子網の材質、ファスナーの使用、漁場の状況に応じた装着の方法等、現場で使用しやすい防除手法の検討を行う。
- ◆ また、改良試験の結果を地域に還元し、防除の取組みを促進する。

(2) 音波忌避装置の改良

- ◆ ゼニガタアザラシの忌避効果の高い装置を開発するとともに、より効果を発揮するための設置方法等についても検討する。
- ◆ 必要に応じて、生け簀等を用いた試験を行う。

2 個体群管理

- ◆ 防除だけでは被害範囲拡大等が避けられないため、漁業被害を軽減するためのゼニガタアザラシの捕獲を実施する。
- ◆ 捕獲数設定の考え方、具体的な捕獲数の設定
- ◆ 常習個体の選択的捕獲手法確立に向けた捕獲の実施
 - ・ 定置網やその周辺に来遊する個体を、選択的に捕獲する手法（定置網自体による捕獲、アザラシ捕獲用わなによる捕獲等）の確立に向け、漁業者と協議の上方法を決定し、捕獲を実施する。
 - ・ 常習個体の選択的捕獲：定置網に執着している亜成獣以上の個体の選択的な捕獲技術を確立する。

3 モニタリング

(1) 生息数及び個体群構成

- ・ 無人ヘリ及び目視による上陸個体数カウント
- ・ 無人ヘリによる撮影画像の分析（個体群構成の把握）

(2) 混獲数

- ・ 定置網による混獲状況に関する情報収集
- ・ 可能な限り個体を回収し、(4)(5)等の調査に資するデータを取得

(3) 捕獲数

- ・捕獲個体を用いて、(4)(5)等の調査に資するデータを取得

(4) 被害状況

- ・被害範囲及び被害程度の把握（被害率、漁獲量等複数の指標を用いる）
- ・食性調査（胃内容物調査等）

(5) 生息動向

- ・繁殖状況、行動範囲等の調査

(6) 生息環境

- ・食物資源となる魚類層等、沿岸生態系の状況調査

(7) 存続可能性評価

- ・モニタリング結果を踏まえた数量解析による生息状況の評価

*漁網の改良、捕獲手法、モニタリング手法の検討等に関しては、北大・農大を中心とする研究者グループ（推進費）により、来年度以降の研究についても現在申請中。

*行政の取組、研究者による研究、地元の漁業者等の経験等を踏まえて効果的管理手法を今後も検討。